

分かり合い、寄り添うこと

～第76回“社会を明るくする運動”に当たって～

今年も“社会を明るくする運動”の強調月間が始まります。日頃から更生保護活動に力を尽くしてくださっている保護司の皆様をはじめ、関係者の皆様に、心から敬意を表し、厚く御礼申し上げます。

今年3月に亡くなられた古賀 常次郎さんは、保護司として更生保護法人「佐賀県恒産会」の理事長を務められるなど、社会復帰を目指す人たちの支援に貢献されてきました。手を差し伸べてくれた方々への感謝の気持ちをもって地域へ恩返しすることを使命とされていたのでしょうか。私も、改めて人と人とのつながりの大切さを感じています。

温かな想いは次の世代へと受け継がれ、社会を明るく照らし続けていきます。

佐賀県は、人と人との温かい結びつきや、地域の絆を大切にしています。だからこそ、支え合う心を育み、誰もが安心して身を寄せることができる「とまり木」のような存在をさらに増やしていきたいと思っています。

私たちが暮らす社会には、悩みや孤独を抱えて日々を過ごしている人たちがたくさんいます。罪を犯してしまった自分と向き合い、社会復帰のために歩み出そうとしている人もその一人です。

彼らにとって、保護司の皆様の寄り添いや励ましは、暗闇に差す光のように、再び社会の中で生きる力となっています。

保護司の皆様の存在は、まさしく「とまり木」そのものなのだと私は思います。更生保護活動がもっと多くの方が知るところとなり、その想いが広がっていくことを心から願っています。

これからも、一人一人を大切に、佐賀らしい優しさで包み込みながら、明るい社会をともに広げていきましょう。

令和8年6月30日

第76回“社会を明るくする運動”

佐賀県推進委員会委員長

佐賀県知事 山口 祥義

